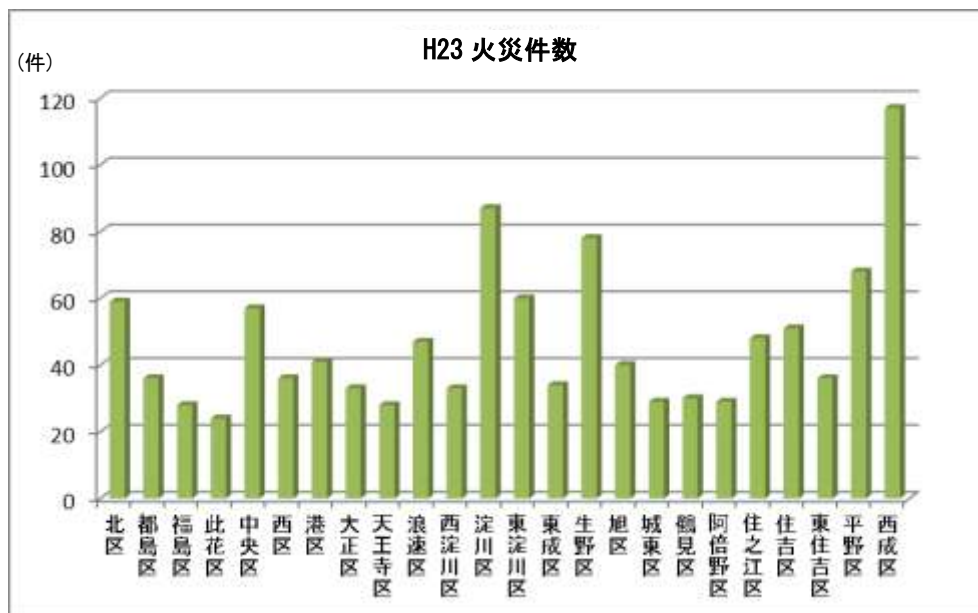


## 第6章 区別の防災・防犯、環境の状況

### 1. 区別の防災・防犯の状況

#### (1) 火災被害の状況

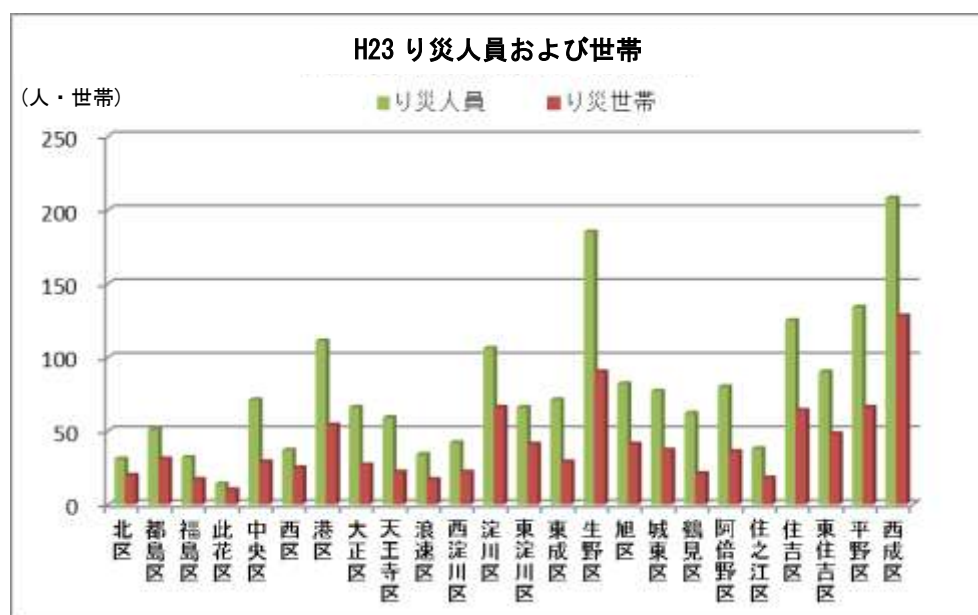
平成23年中の各区の火災件数をみると、西成区が117件、淀川区が87件と多い。



出典：大阪市消防局

#### (2) り災人員およびり災世帯の状況

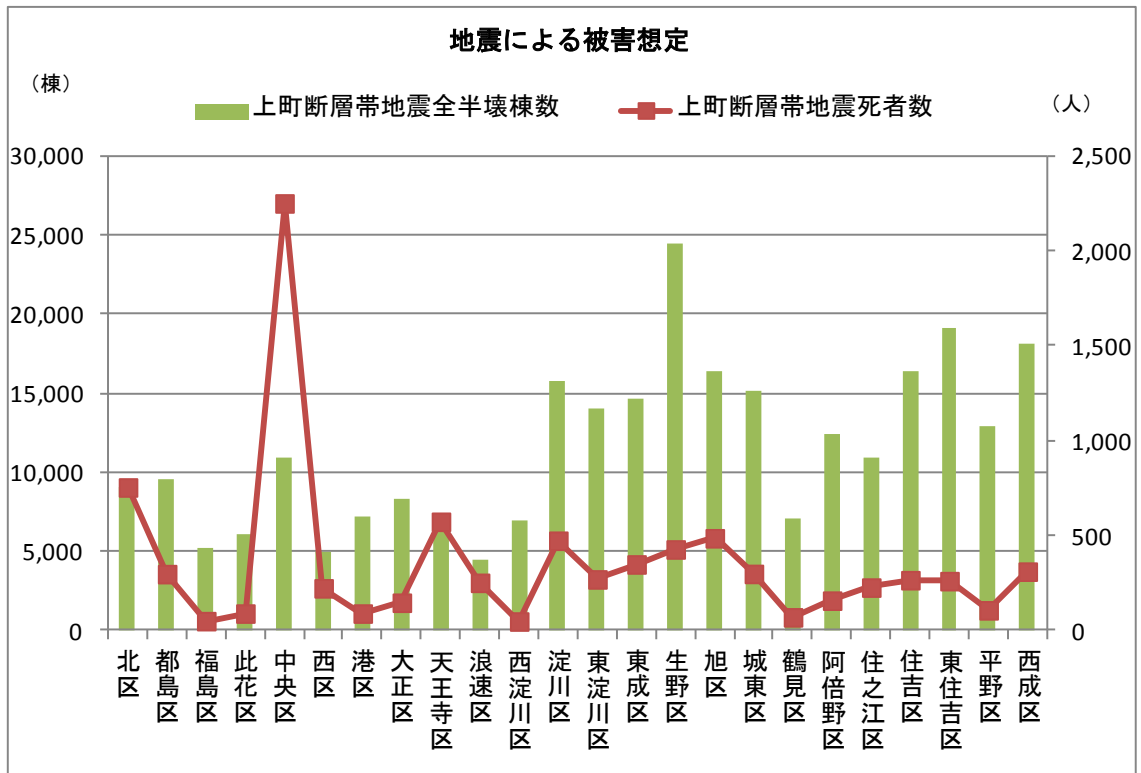
各区の平成23年中のり災人員およびり災世帯数をみても、ともに西成区が208人、128世帯と最も多い。



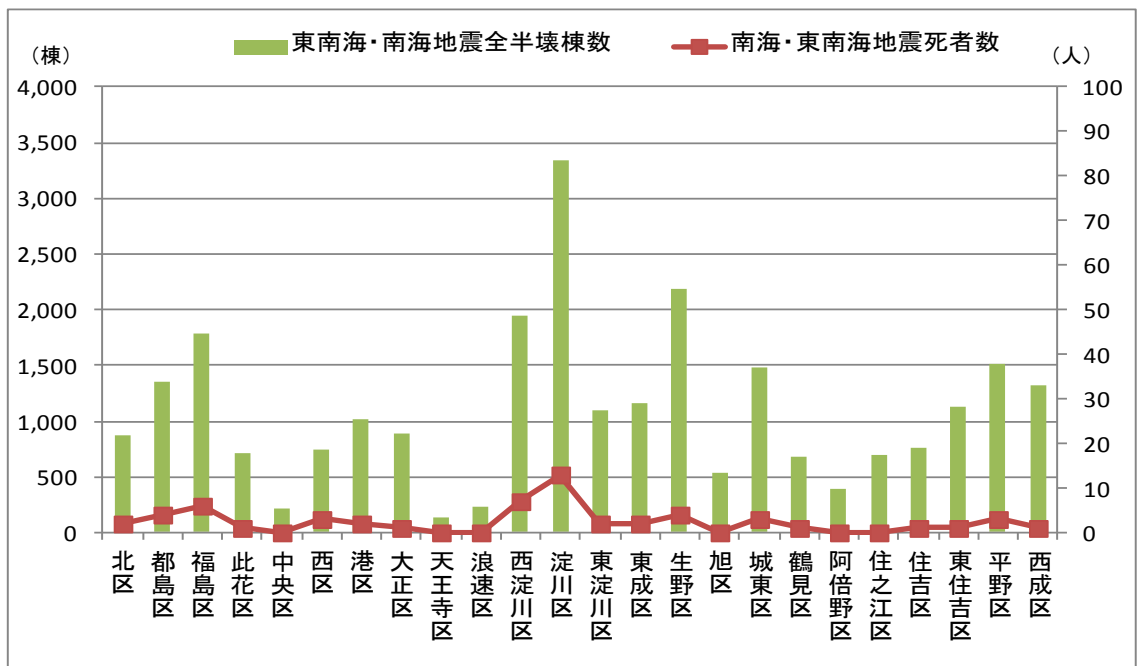
出典：大阪市消防局

### (3) 地震による被害想定状況

上町断層帯地震による被害想定をみると、全半壊棟数は生野区が2万4440棟、東住吉区が1万9068棟と多く、死者数は中央区が2252人と突出して多く、次いで北区が754人と多い。



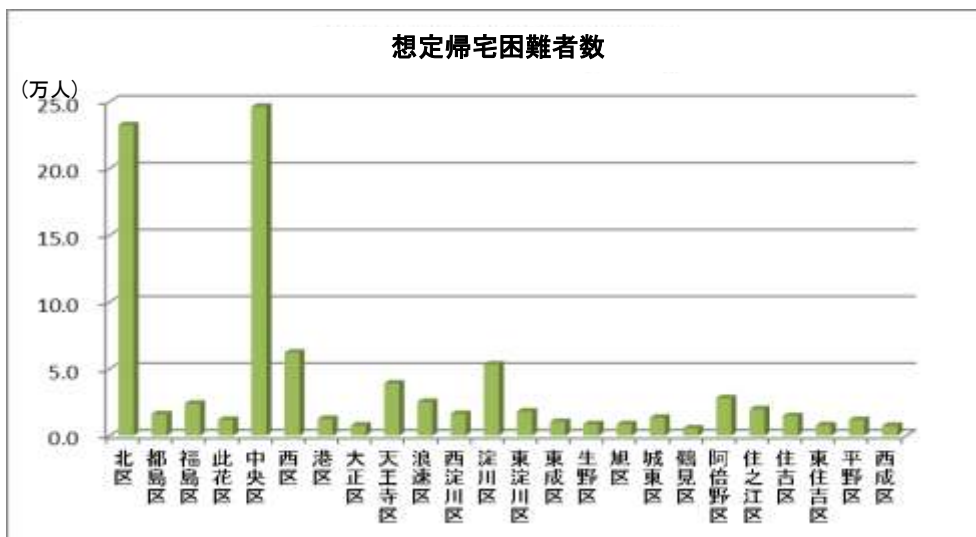
東南海・南海地震による被害想定をみると、上町断層帯地震よりも被害規模は全体的に小さい。その中で全半壊棟数は淀川区が3340棟、生野区が2189棟と比較的多く、死者数は淀川区が13人、西淀川区が7人と比較的多い。



出典：大阪市危機管理室

#### (4) 想定帰宅困難者の状況

想定帰宅困難者数を見ると、中央区が 24 万 6300 人、北区が 23 万 2500 人と突出して多い。

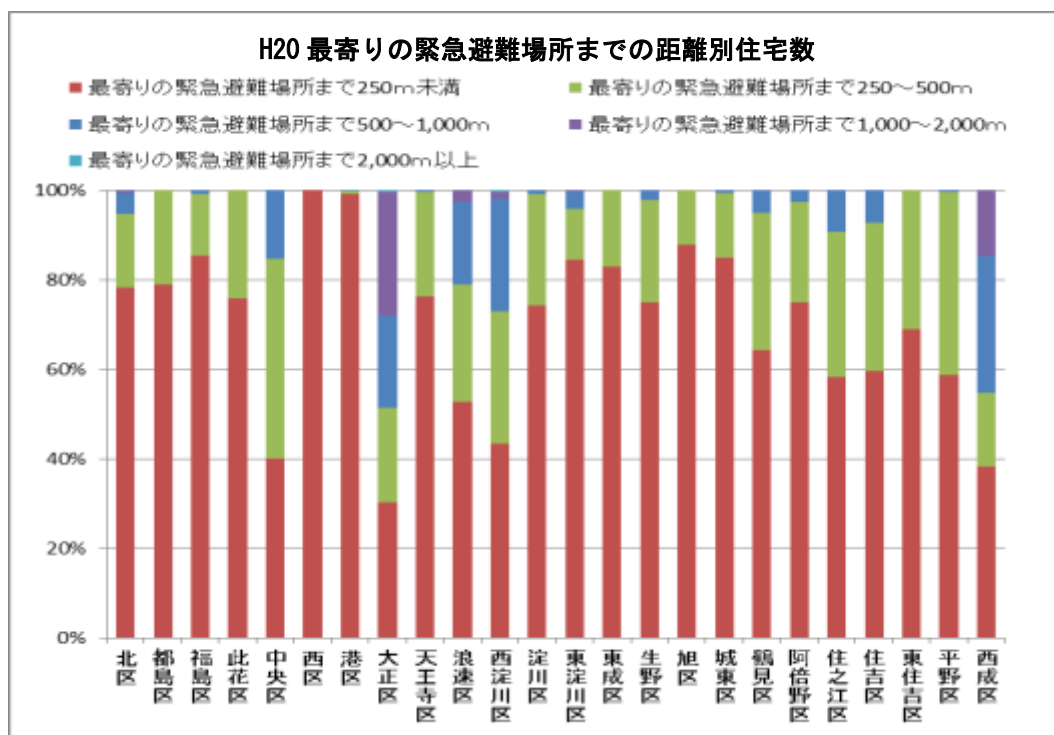


出典：大阪市危機管理室

#### (5) 住宅から最寄りの緊急避難場所までの距離

各区の住宅から最寄りの緊急避難場所までの距離を見ると、250m未満の割合は西区が100.0%、港区が99.1%と高く、1,000m以上の割合は大正区が27.9%、西成区が14.7%と高い。

中央区では、250m未満の割合は40.0%と低いが、250m以上500m未満の割合は44.8%と高い。

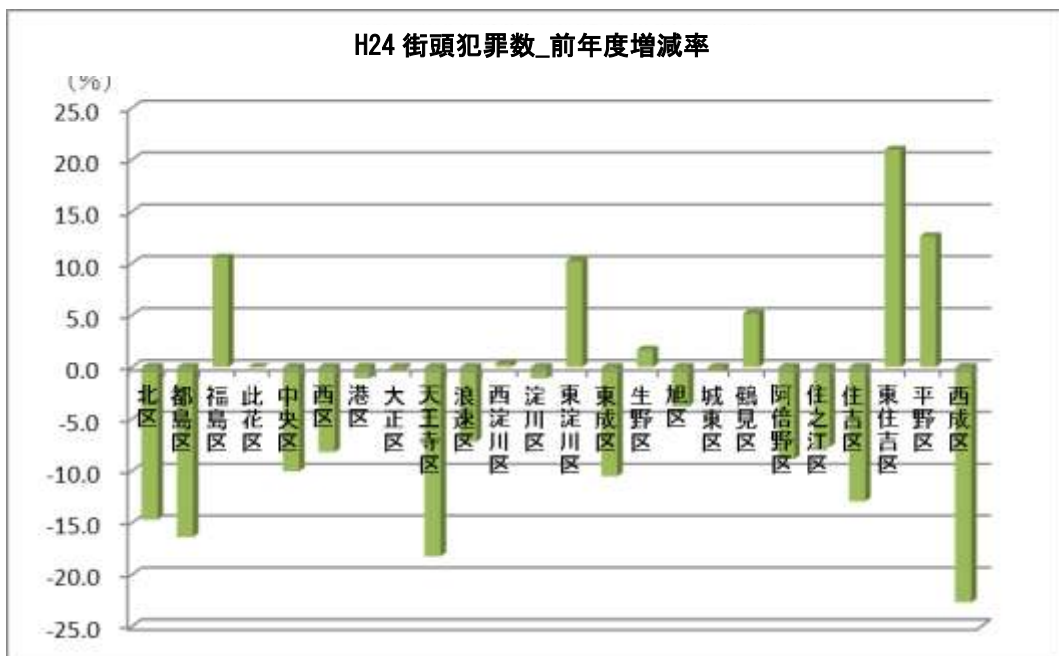
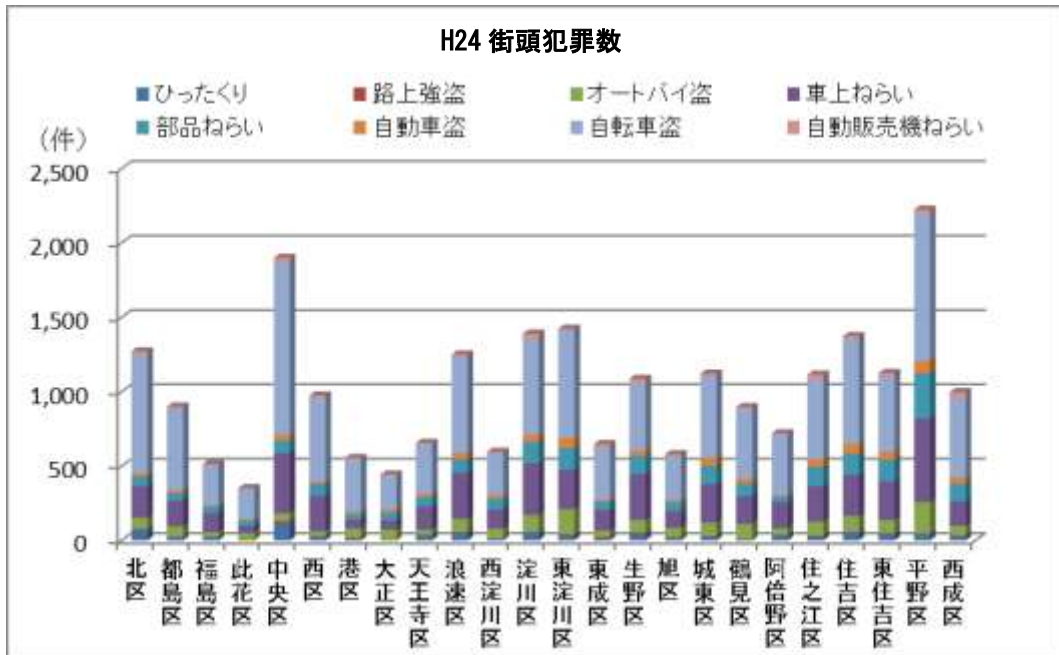


出典：平成 20 年住宅・土地統計調査（総務省統計局）

(6) 街頭犯罪の状況

平成24年の各区の街頭犯罪数をみると平野区が2224件、中央区が1898件と多い。種別では、自転車盗がすべての区で多く、次いで車上ねらいが多い傾向にある。

街頭犯罪の前年度比の増減率をみると、東住吉区が21.0%、平野区が12.6%の増加となっている一方、西成区では△22.7%、天王寺区では△18.2%の減少となっている。



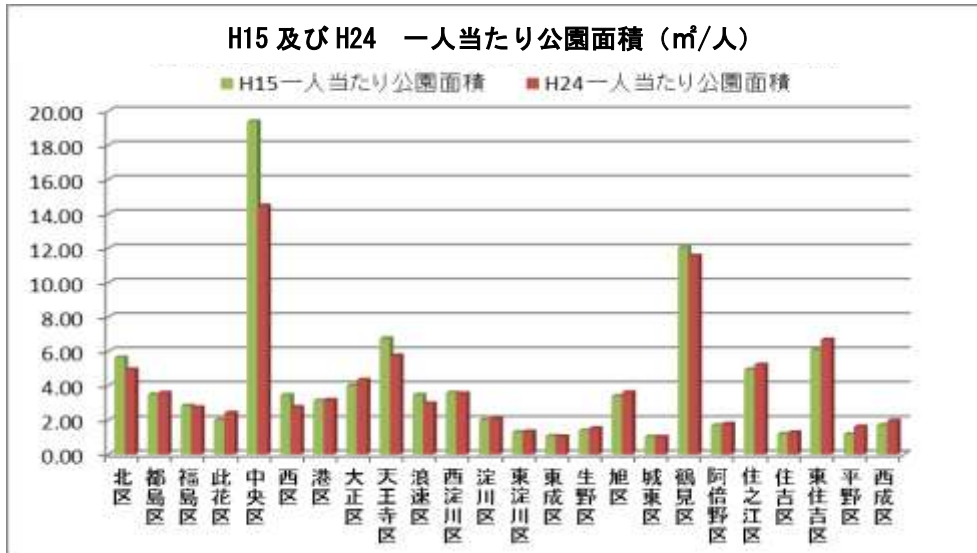
出典：大阪府警「大阪市の犯罪発生状況」

## 2. 区別の環境の状況

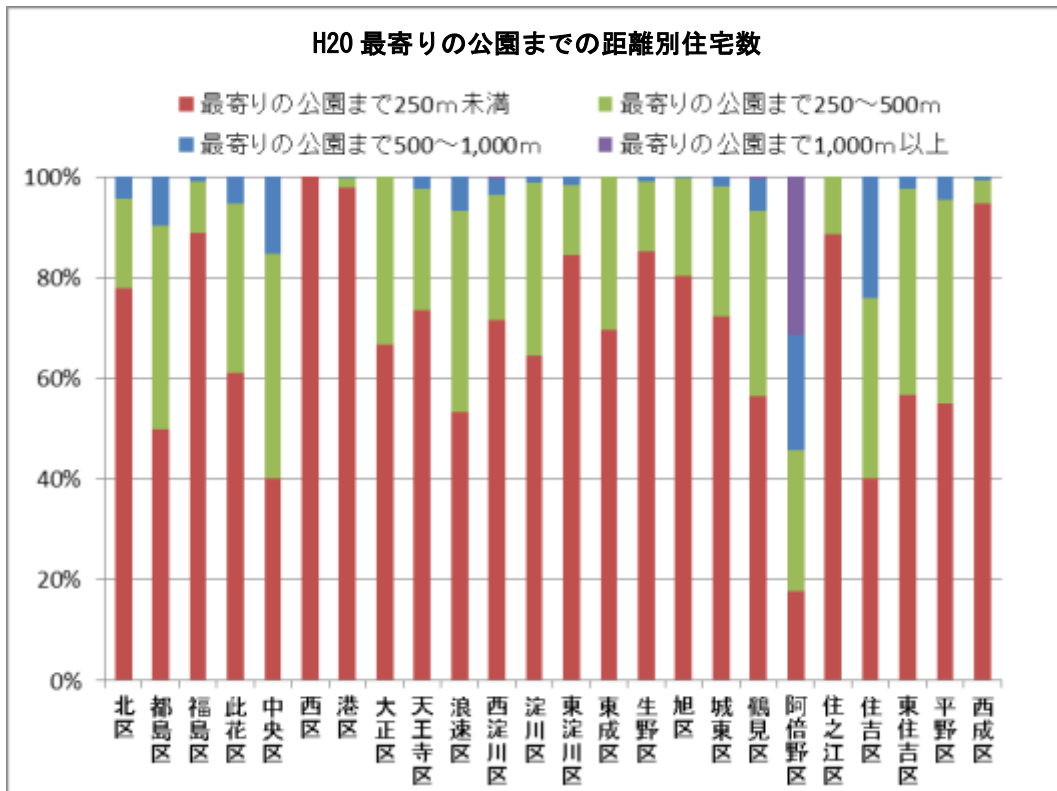
### (1) 公園施設の状況

平成24年の各区の一人当たり公園面積をみると、中央区が14.47㎡、鶴見区が11.56㎡と大規模公園を有する区が突出して大きい。

住宅から最寄りの公園までの距離をみると、250m未満の割合は西区が100.0%、港区が97.8%と高い。阿倍野区では250m未満の割合が17.8%と低く、1,000m以上の割合が54.2%と高い。



出典：大阪市建設局

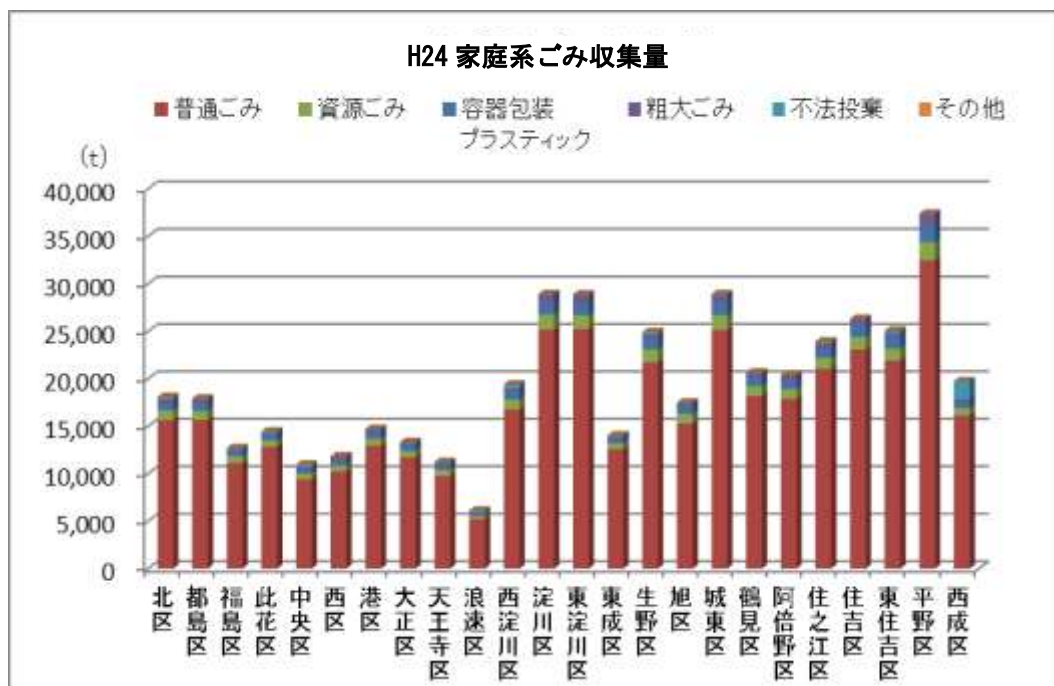


出典：平成20年住宅・土地統計調査（総務省統計局）

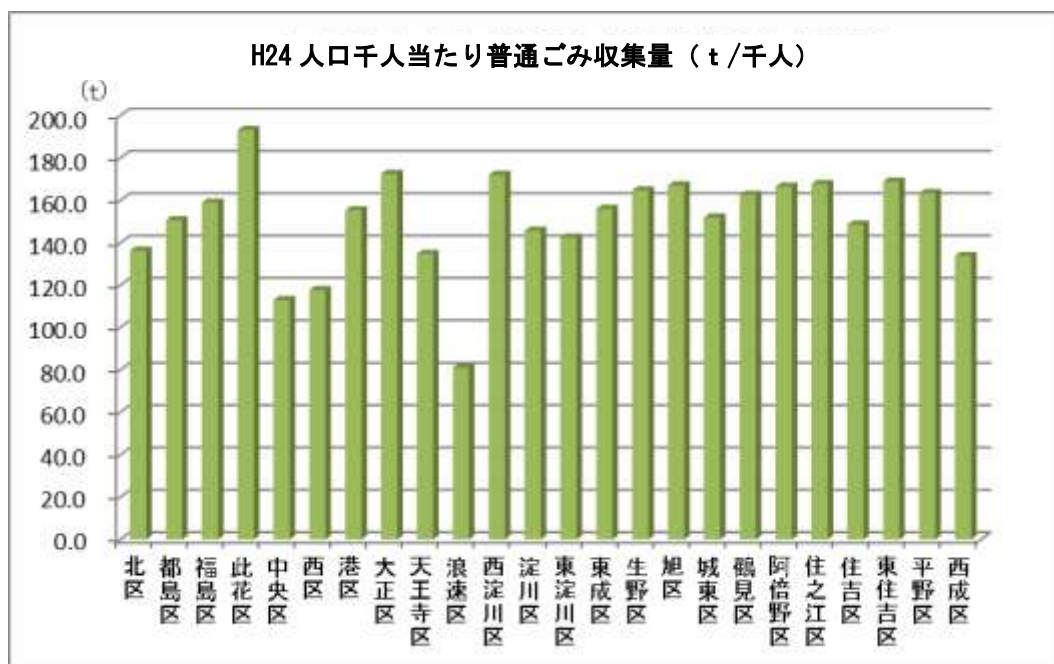
## (2) 家庭系ごみ収集の状況

平成24年の各区の家庭系ごみ収集量をみると、平野区が3万7418 t、淀川区が2万8950 t と多い。

人口千人あたり普通ごみ収集量をみると、此花区が 193.2 t、大正区が 172.5 t と多く、浪速区が 81.1 t、中央区が 113.1 t と少ない。



注) その他は、古紙、衣類、小物金属



出典：大阪市環境局

### 3. 第6章まとめ

- 火災被害の状況を火災件数、り災人員からみると、火災件数・り災人員とも特に多い西成区・平野区、火災件数も多いが比較してり災人員がさらに多い生野区、火災件数が多いが比較してり災人員は少ない淀川区、と火災件数が多い区でも特徴が異なる。
- 上町断層帯地震による全半壊棟数で特に大きな被害が予測されているのは生野区、次いで東住吉区、西成区となっている。中央区は全半壊棟数は24区の中で平均的であるが、死者数は突出して多い。
- 想定帰宅困難者数は中央区と北区で大半を占めている。
- 最寄りの緊急避難場所から250m未満と近い住宅の割合では、西区と港区がほぼ100%となっているのに対し、大正区、西成区、中央区では40%未満と非常に低くなっている。特に大正区では1km以上の割合が30%近くとなっている。
- 街頭犯罪数の状況では、平野区が最も多く、前年度に比べて増加している。一方、次に多い中央区では逆に減少している。
- 人口一人当たりの公園面積では、主に大規模公園の有無による影響が大きく、区域内に大規模公園を抱える中央区、鶴見区が特に大きくなっている。
- 住宅から最寄りの公園までの距離では、西区、港区、西成区で距離250m未満の住宅の割合が100%近くを占め、阿倍野区では10%台となっている。20区で距離250m未満の住宅の割合が50%を超えている。
- 普通ごみの収集量についてはおおむね人口に比例している。
- 人口千人あたりの普通ごみ収集量では、此花区で多いほか、浪速区で特に少なく中央区・西区で少ないなどの違いがあるが、全体ではそれほど大きな違いはない。